



OncoTherapy
Science, Inc.

オンコセラピー・サイエンス株式会社 会社説明会

代表取締役社長 山本和男

平成30年11月27日

オンコセラピー・サイエンス(OTS)が目指すもの



より治療効果が高く、
より副作用の少ないがん治療薬・治療法を
一日も早く
がんに苦しむ患者さんに届けること
がんとの闘いに勝つこと



目次

1) OTSの特長と経営方針

2) 当期の決算状況

3) 研究開発パイプライン

4) 研究開発の進捗状況

- 低分子研究開発状況
- OTSA101 (抗体医薬) 開発状況
- がんワクチン開発状況

5) 株式会社 Cancer Precision Medicine

- 免疫療法の研究開発

OTSの革新的基盤技術 → 創薬モデル



網羅的遺伝子解析データベースに基づき、
がん細胞には作用し、ヒト正常臓器細胞には作用しない
副作用の少ない新薬候補に結びつける「創薬モデル」

1. 新鮮で多数の臨床検体(サンプル)

- 約1000例以上の臨床検体(患者数 20~80 名/ がん種)

2. がん特異的遺伝子の特定

- Laser Microbeam Microdissection (LMM) system
がん細胞および正常細胞の遺伝子発現データベース構築
- 独自の cDNA マイクロアレイ解析

3. がん細胞の生存または増殖に必須であるかの確認

- RNA干渉法による阻害他の確認

4. 31のヒト正常臓器細胞における発現の確認

- 生命維持に重要なヒト正常臓器細胞で発現していない

OTSの研究開発戦略



基本方針

•ゲノム創薬

- ✓ OTS革新的基盤技術に基づく創薬モデルから新薬候補を継続的に創製

領域別 開発 戦略

•低分子医薬

- ✓ シカゴ大学を初めとする米国の優れた大学・研究機関の専門医との協力を重視し、グローバルな視点で臨床試験を迅速に遂行

•がんワクチン

- ✓ 提携先製薬企業との戦略的会話をより促進し、提携先が実施する臨床試験の側方支援、後方支援を強力に推し進める。

•抗体医薬

- ✓ OTSA101の第 I 相臨床試験(フランス)を終了。日米欧での希少疾患薬の承認をめざして、次の臨床試験を計画中



目次

1) OTSの特長と経営方針

2) 当期の決算状況

3) 研究開発パイプライン

4) 研究開発の進捗状況

- 低分子研究開発状況
- OTSA101 (抗体医薬) 開発状況
- がんワクチン開発状況

5) 株式会社 Cancer Precision Medicine

- 免疫療法の研究開発

2019.3期2Qの決算状況



連結損益計算書

(百万円)	2018.3期2Q	2018.3期	2019.3期2Q
事業収益(売上高)	201	211	24
経常損失	1,422	2,977	1,734
親会社株主に帰属する当期 (四半期)純損失	1,367	2,851	1,542
(研究開発費)	(1,489)	(2,931)	(1,598)

セグメント	医薬品の研究及び開発			がんプレジジョン医療関連事業		
	2018.3期 2Q	2018.3期	2019.3期 2Q	2018.3期 2Q	2018.3期	2019.3期 2Q
(百万円)						
売上高	—	205	1	—	5	22
損失	—	2,475	1,126	—	267	483



目次

1) OTSの特長と経営方針

2) 当期の決算状況

3) 研究開発パイプライン

4) 研究開発の進捗状況

- 低分子研究開発状況
- OTSA101 (抗体医薬) 開発状況
- がんワクチン開発状況

5) 株式会社 Cancer Precision Medicine

- 免疫療法の研究開発

研究開発パイプライン(2018.9現在)



食道がんの第Ⅲ相試験(塩野義導出済)を筆頭に、3分野(低分子、がんワクチン、抗体)のすべてで、治験段階の開発が進んでいる

	化合物	標的/疾患	基礎研究	開発化合物	非臨床試験	第Ⅰ相臨床試験	第Ⅱ相臨床試験	第Ⅲ相臨床試験
低分子	OTS167	MELK(白血病) MELK(乳がん)	→			→		
	OTS964等	TOPK	→					
	-	5種類の標的を同定済み	→					
ペプチドワクチン	S-588410 (塩野義製薬へ) 導出済み、開発支援	食道がん	→					
	(塩野義製薬へ) 導出済み	膀胱がん 頭頸部がん	- - - - -			→	→	
抗体	OTSA101	滑膜肉腫	→			→		
	(協和発酵キリンへ) 導出済み	アルツハイマー型 認知症	- - - - -			→		

注: 実線は当社開発中(開発支援含む)、点線は導出済み(導出先の製薬会社が開発中)



目次

1) OTSの特長と経営方針

2) 当期の決算状況

3) 研究開発パイプライン

4) 研究開発の進捗状況

- 低分子研究開発状況

- OTSA101 (抗体医薬) 開発状況

- がんワクチン開発状況

5) 株式会社 Cancer Precision Medicine

- 免疫療法の研究開発

低分子研究開発状況



	化合物	標的/疾患	基礎研究	開発化合物	非臨床試験	第Ⅰ相臨床試験	第Ⅱ相臨床試験	第Ⅲ相臨床試験
低分子	OTS167	MELK(白血病) MELK(乳がん)				→		
	OTS964等	TOPK			→			
	-	5種類の標的を同定済み		→				

MELK阻害剤

- MELK (Maternal Embryonic Leucine Zipper Kinase) は、多くのがんで発現が上昇している
- 精巣以外の正常組織では低発現している
- がん細胞及びがん幹細胞の増殖・生存に重要である
- MELK阻害剤OTS167は、ヒトがん細胞移植モデル(マウス)でMELK特異的かつ強い抗腫瘍効果を認めている

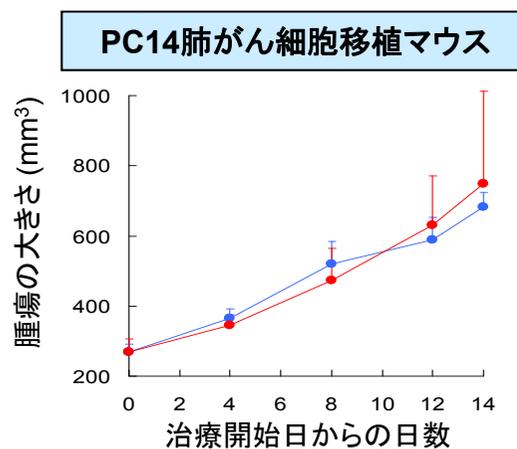
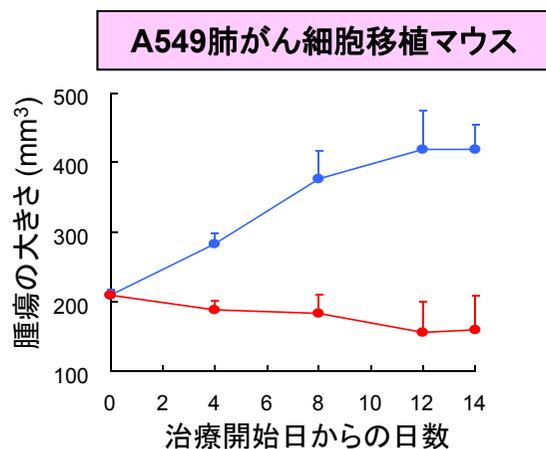
➤ MELKに対して高い阻害活性

OTS167 IC₅₀ = 1.1 nM *IC₅₀; 半数阻害濃度。低い値を示す程阻害剤としての効果が高いとされる。

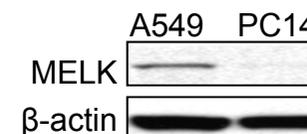
➤ MELK発現がん細胞に対して選択的に有意な細胞増殖阻害活性

A549	IC ₅₀ =	8.9 nM	(肺がん細胞; MELK発現)
T47D	IC ₅₀ =	5.3 nM	(乳がん細胞; MELK発現)
DU4475	IC ₅₀ =	3.3 nM	(トリプルネガティブ乳がん細胞; MELK発現)
HT1197	IC ₅₀ =	120.0 nM	(膀胱がん細胞; MELK非発現)

➤ MELK特異的な抗腫瘍効果



● コントロール(対照群)
● OTS167 10 mg/kg 経口1回/1日



OTS167臨床開発状況



- 2013年8月ファースト・イン・ヒューマン試験開始
- ヒトにおける安全性確認が主目的
- OTS167静脈内投与に対する安全性・忍容性が確認されたため、2017年4月試験終了

ステージ	第1相
対象疾患	進行性・治療不応・再発固形がん
投与経路	静脈内
治験実施施設	シカゴ大学(アメリカ)
目的	OTS167投与後の安全性、忍容性確認 用量制限毒性(DLT)、最大耐量(MTD)確認 体内薬物動態の確認
結果	OTS167静脈内反復投与への良好な忍容性が認められた

OTS167臨床開発状況



- 2016年12月経口投与での薬物動態(経口吸収性)試験実施
- OTS167経口投与で良好な経口吸収性が認められた

ステージ	第1相
対象	健常成人
投与経路	経口(液体)
治験実施施設	オーストラリア
目的	経口投与での安全性、忍容性の確認 薬物動態・経口吸収性の確認
結果	OTS167経口投与(低用量)の安全性が確認された 良好な経口吸収性が認められた

OTS167臨床開発状況



- 2016年8月血液がん患者を対象とした第1/2相試験開始
- 静脈内反復投与での安全性、最大耐量確認が主目的

ステージ	第1/2相
対象疾患	治療不応・再発白血病 (急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病、慢性骨髄性白血病、骨髄異形成症候群、骨髄増殖性腫瘍)
投与経路	静脈内
治験実施施設	シカゴ大学、コーネル大学(アメリカ)
目的	<u>第1相</u> OTS167反復投与(連日)の安全性、忍容性確認 用量制限毒性(DLT)、最大耐量(MTD)確認 体内薬物動態の確認 <u>第2相</u> 推奨投与用量・用法での安全性・有効性確認

OTS167臨床開発状況



- 2017年5月乳がん患者を対象とした第1相試験の患者登録開始
- 経口投与での安全性・忍容性確認が主目的

ステージ	第1相
対象疾患	治療不応・再発乳がん(トリプルネガティブ乳がん含む)
投与経路	経口(カプセル)
治験実施施設	MDアンダーソンがんセンター、コーネル大学、ノーウォーク・ホスピタル(アメリカ)
目的	OTS167経口反復投与の安全性、忍容性確認 用量制限毒性(DLT)、最大耐量(MTD) 体内薬物動態の確認 トリプルネガティブ乳がんにおける有効性(副次的)

OTS167臨床開発：今後の開発方針



- 実施中の治験についてはより早く結果が得られるように進めていく
- 血液がん、固形がんの両方を対象に開発を継続する
- 注射剤（静脈内）とカプセル剤（経口）の両投与経路での開発を継続する

低分子研究開発状況



	化合物	標的/疾患	基礎研究	開発化合物	非臨床試験	第Ⅰ相臨床試験	第Ⅱ相臨床試験	第Ⅲ相臨床試験
低分子	OTS167	MELK(白血病) MELK(乳がん)	→			→		
	OTS964等	TOPK	→		→			
	-	5種類の標的を同定済み	→					



TOPK阻害剤

- TOPK (T-LAK cell Protein Kinase) は、急性骨髄性白血病 (AML) を含んだ多くのがんで発現が上昇している
- 精巣以外の正常組織では低発現している
- がん細胞の分裂に関与し、増殖を促進させる
- OTS964をはじめ、複数のTOPK阻害化合物を創出している

➤ TOPKに対して高い阻害活性

OTS964	IC ₅₀ = 28 nM
TOPK Compound 1	IC ₅₀ < 10 nM
TOPK Compound 2	IC ₅₀ < 10 nM

*IC₅₀; 半数阻害濃度。低い値を示す程阻害剤としての効果が高いとされる。

➤ TOPK発現がん細胞に対して選択的に有意な細胞増殖阻害活性

OTS964

LU-99	IC ₅₀ = 7.6 nM (肺がん細胞; TOPK発現)
MDA-MB-231	IC ₅₀ = 73 nM (トリプルネガティブ乳がん細胞; TOPK発現)
HT29	IC ₅₀ = 290 nM (大腸がん細胞; TOPK非発現)

TOPK阻害剤開発：今後の開発方針



- OTS964は非臨床試験を実施中
- OTS964以外のTOPK化合物については、がん細胞における増殖阻害効果及びヒトがん細胞移植マウスモデルを用いた抗腫瘍効果を確認する



目次

1) OTSの特長と経営方針

2) 当期の決算状況

3) 研究開発パイプライン

4) 研究開発の進捗状況

- 低分子研究開発状況
- OTSA101 (抗体医薬) 開発状況
- がんワクチン開発状況

5) 株式会社 Cancer Precision Medicine

- 免疫療法の研究開発

抗体医薬研究開発状況

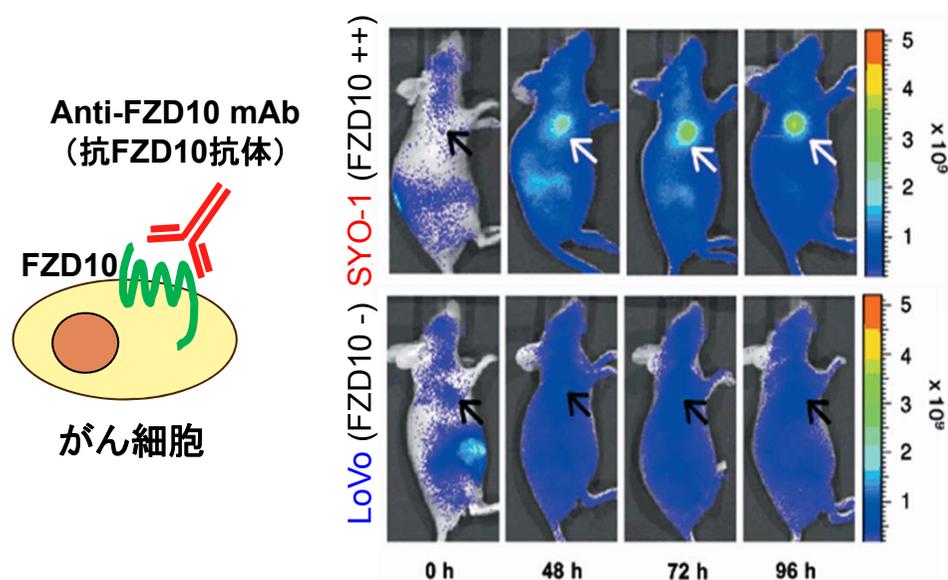


	化合物	標的/疾患	基礎研究	開発化合物	非臨床試験	第 I 相 臨床試験	第 II 相 臨床試験	第 III 相 臨床試験
抗体	OTSA101	滑膜肉腫				→		
	(協和発酵キリンへ) 導出済み	アルツハイマー型 認知症				→		

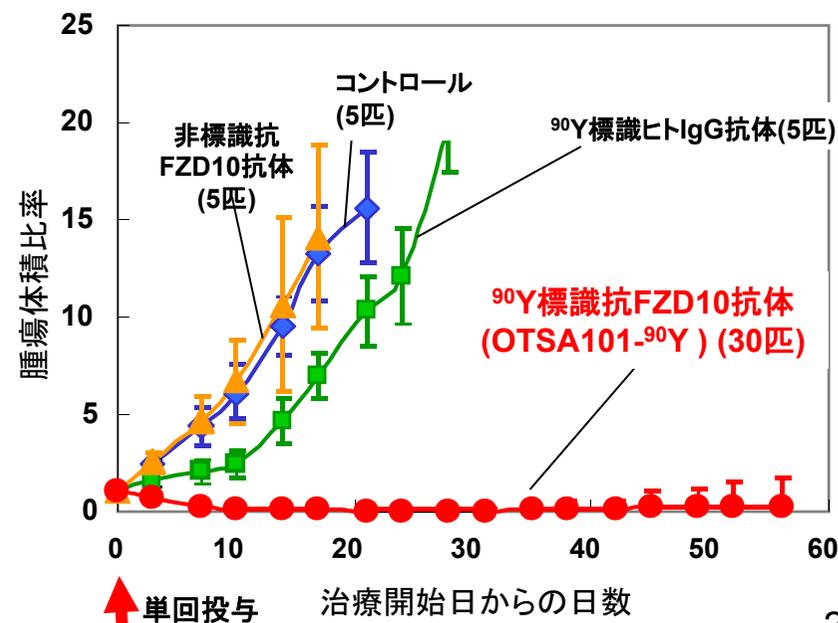
注:実線は当社開発中(開発支援含む)、点線は導出済み(導出先の製薬会社が開発中)

抗FZD10抗体

- FZD10 は滑膜肉腫に特異的かつ高頻度の高発現している
- 胎盤以外の正常臓器では発現していない
- FZD10は細胞膜に発現している
- FZD10をターゲットとした抗体(抗FZD10抗体)は、生体内でFZD10 陽性滑膜肉腫へ特異的に集積する
- 放射性核種である ^{90}Y を結合させたOTSA101(抗FZD10抗体)は、滑膜肉腫細胞移植マウスに対して強い抗腫瘍効果を示す



ヒト滑膜肉腫細胞(SYO-1)を移植したマウス



OTSA101-90Y 臨床開発状況と今後の方針



- フランスにおいて滑膜肉腫患者を対象とした医師主導第 I 相臨床試験を終了(安全性、腫瘍集積を確認)
- OTSA101-90Yはオーファンドラッグとして開発: 欧州医薬品庁(EMA)、米食品医薬品局(FDA)によるオーファンドラッグ指定
- 日米欧の規制当局と次の臨床試験を検討する(オーファンドラッグ活用)
- 滑膜肉腫における承認申請(日米欧)を目指す
- 他のがん種の追加適応を検討する



目次

1) OTSの特長と経営方針

2) 当期の決算状況

3) 研究開発パイプライン

4) 研究開発の進捗状況

- 低分子研究開発状況
- OTSA101 (抗体医薬) 開発状況
- がんワクチン開発状況

5) 株式会社 Cancer Precision Medicine

- 免疫療法の研究開発

がんワクチン開発状況



	化合物	標的/疾患	基礎研究	開発化合物	非臨床試験	第Ⅰ相 臨床試験	第Ⅱ相 臨床試験	第Ⅲ相 臨床試験
ワクチン ペプチド	S-588410 (塩野義製薬へ) 導出済み、開発支援	食道がん						→
	(塩野義製薬へ) 導出済み	膀胱がん 頭頸部がん					→	

- S-588410食道がん第Ⅲ相臨床試験は、2018年3月に患者登録を完了
- S-588410投与後の食道がん患者腫瘍組織においてPD-L1の発現上昇及びCD8陽性T細胞数の増加が確認された(2018年10月23日リリース)ことから、抗PD-1/PD-L1抗体との併用による相加・相乗効果が期待される。

注:実線は当社開発中(開発支援含む)、点線は導出済み(導出先の製薬会社が開発中)

目次



1) OTSの特長と経営方針

2) 当期の決算状況

3) 研究開発パイプライン

4) 研究開発の進捗状況

- 低分子研究開発状況
- OTSA101 (抗体医薬) 開発状況
- がんワクチン開発状況

5) 株式会社 Cancer Precision Medicine

- 免疫療法の研究開発

株式会社 Cancer Precision Medicineの設立



オンコセラピー・サイエンス

がんペプチドワクチンをはじめとした
免疫療法の研究開発

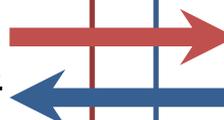
免疫細胞 (T/B 細胞) 受容体の解析

免疫反応解析

テラジェン・イテックス

ヒトゲノム等の次世代シーケンス
解析サービス

バイオインフォマティクス技術



2017年 7月

(株) Cancer Precision Medicine

CPMクリニカルラボ

神奈川県川崎市
殿町国際戦略拠点
キング スカイフロント

2018年2月、衛生検査所登録



次世代シーケンサー 5台

CPM社の受託事業および研究開発



適切な治療薬・
治療法の選択

免疫療法の研究開発

早期発見・再発モニタリング

(1) 適切な治療薬の選択

シーケンス解析

(2) がんスクリーニング率の向上と早期診断

(3) 再発の早期発見と早期治療

リキッド
バイオプシー

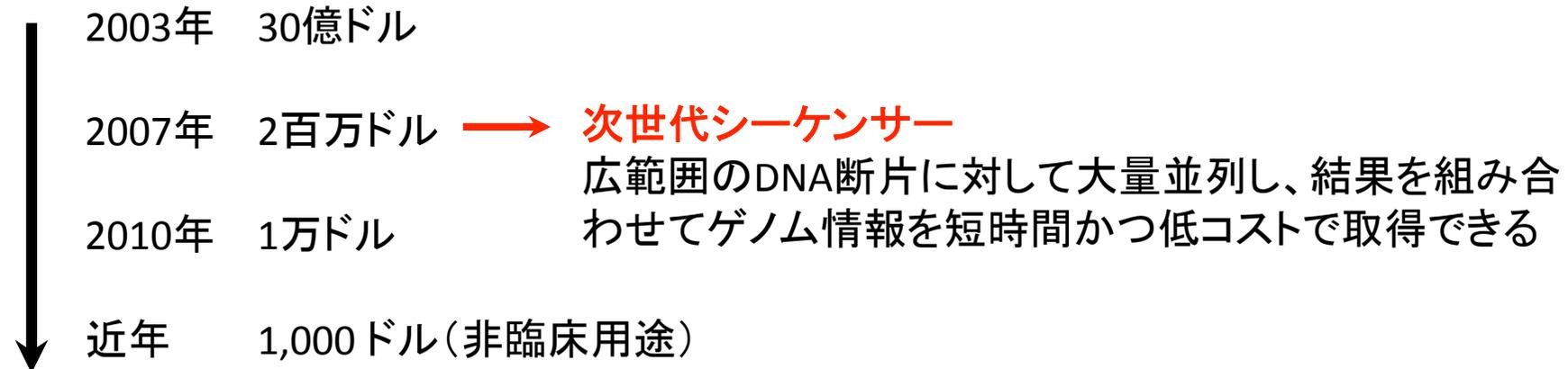
(4) 新規がん治療法の開発

個別化免疫療法

- ✓ ネオアンチゲンワクチン療法
- ✓ TCR遺伝子導入T細胞療法

遺伝子解析技術の進捗

- 全塩基配列の解析シーケンス費用



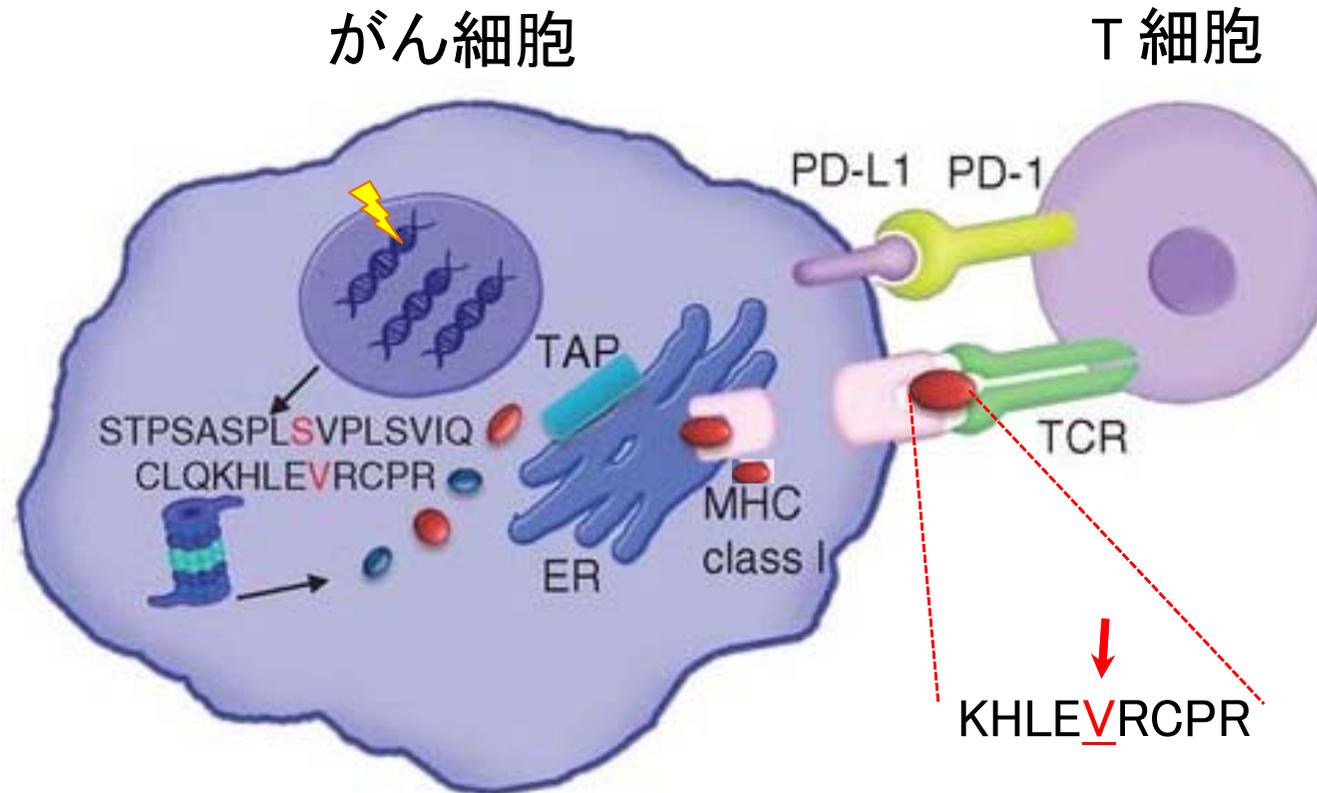
- 遺伝子パネル検査

がん発症原因となった、もしくはがんで高頻度に検出される複数の遺伝子変異を一度に網羅的に調べる

- リキッドバイオプシー

血液中や尿中に混入しているがん細胞由来DNAを用いて遺伝子異常を検査する

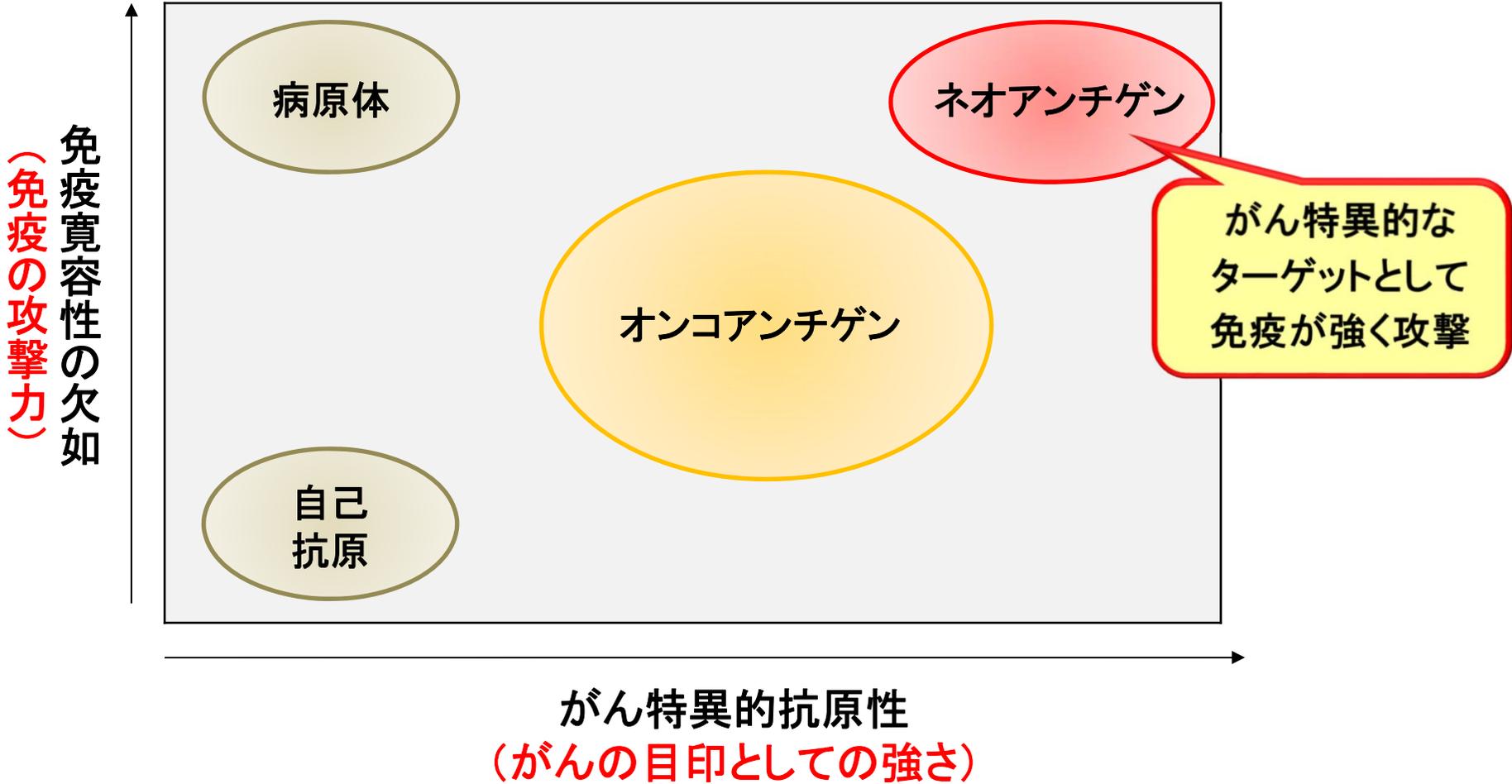
ネオアンチゲンとは



● ネオアンチゲン

がん特異的な抗原となるネオアンチゲンは、アミノ酸を変える遺伝子変異を持つDNAから作られるタンパク質が分解してできるもので、分解してできたペプチドはMHC分子とくっつくことで、がん細胞の表面に運ばれ、免疫細胞の攻撃目標となる。

ネオアンチゲンの抗原性と免疫寛容



adapted from Hacohen et al., Cancer Immunol Res. 2013

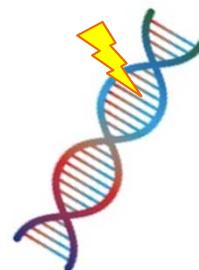
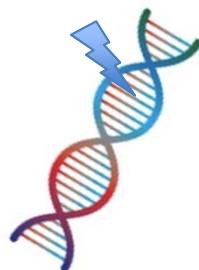
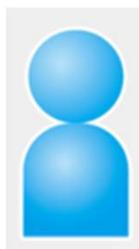
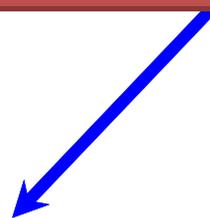
遺伝子解析による分子標的薬の選択

遺伝子解析

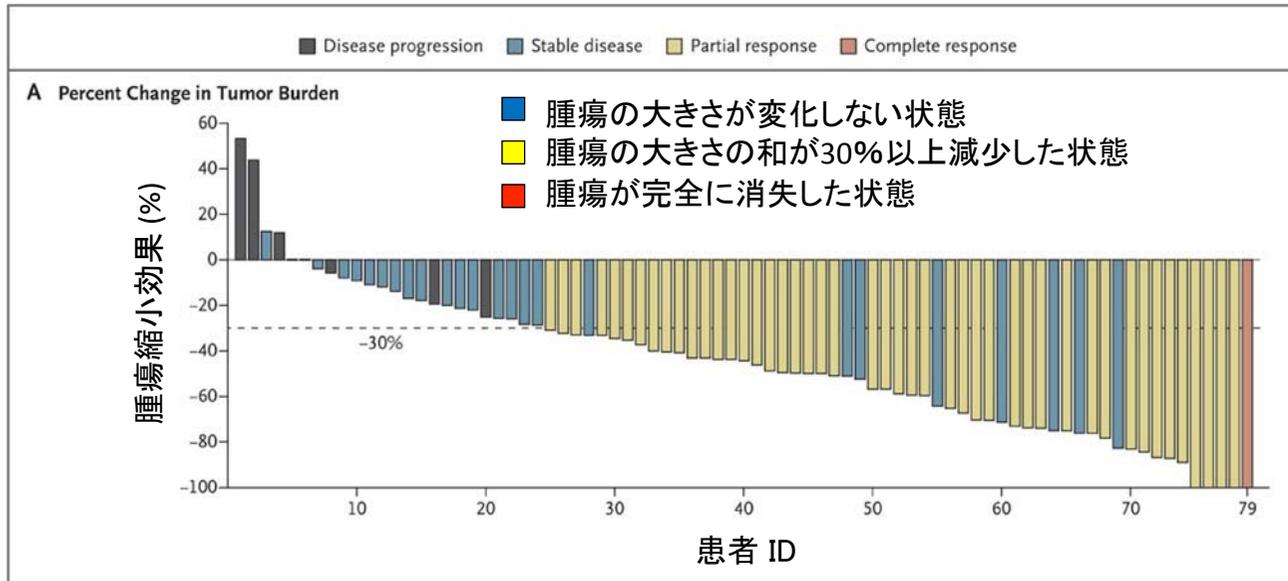


分子標的薬の対象となる遺伝子変異

あり: 10 - 30 %

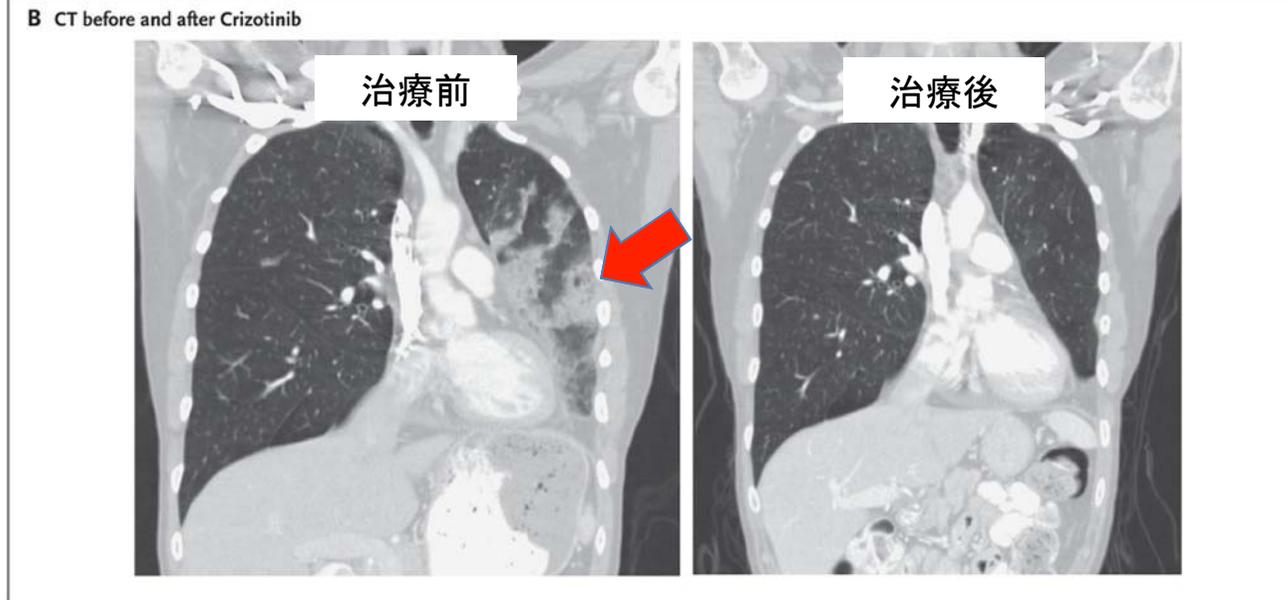


ALK遺伝子変異陽性非小細胞肺癌患者の例



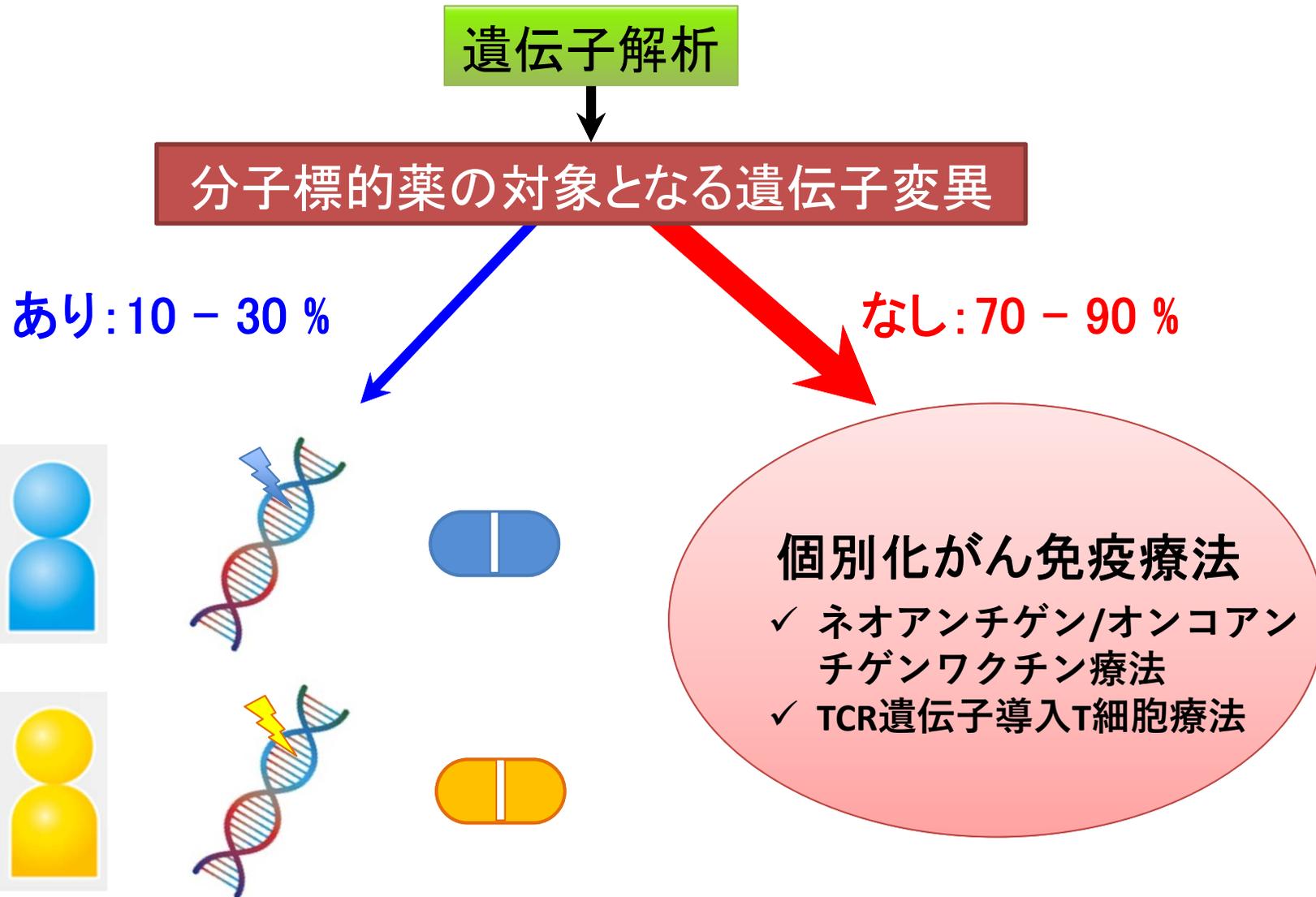
ALK (Anaplastic Lymphoma Kinase) 阻害剤

クリゾチニブ(ザーコリ®)

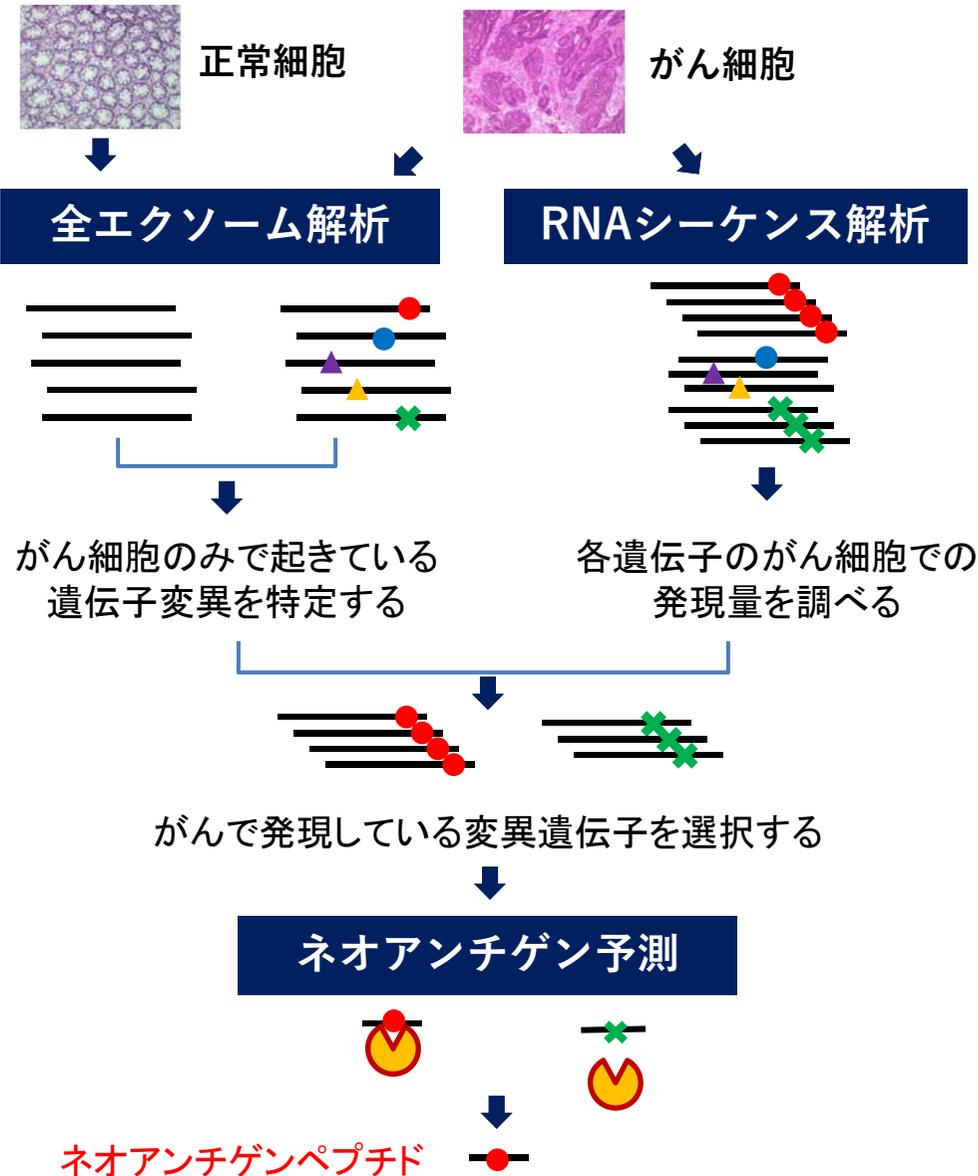


Kwak et al. N Engl J Med. 2010

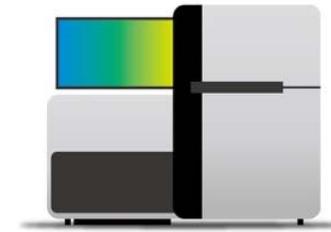
遺伝子解析による分子標的薬の選択



ネオアンチゲン解析



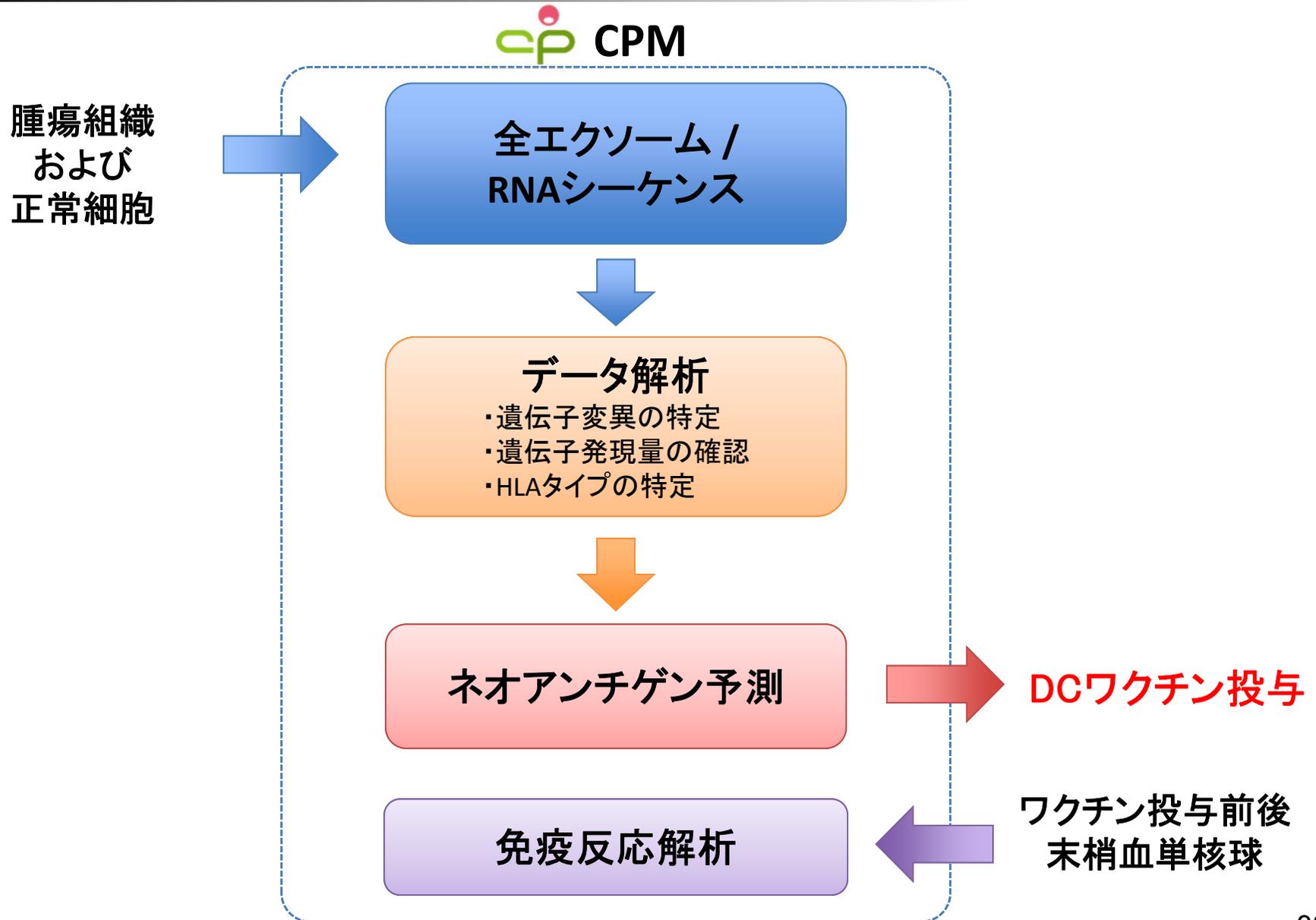
シーケンス解析



HLA分子に結合する
遺伝子変異を含む
ペプチド予測

A*02:01	A*24:02
<u>Y</u> LWEGNLEGT	AYFVTYVFF <u>I</u>
V <u>M</u> VALSCLL	PYARLGWAMT <u>L</u>
FLYTH <u>Q</u> RNA	KFLAAAHN <u>F</u>
LL <u>L</u> APPGALPL	S <u>Y</u> MGGMNRRI
S <u>M</u> IGVLTQNA	S <u>W</u> GLPCTELF
...
...	...

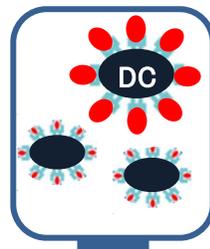
ネオアンチゲンDCワクチンの流れ



ペプチドワクチン・DCワクチン療法のメカニズム



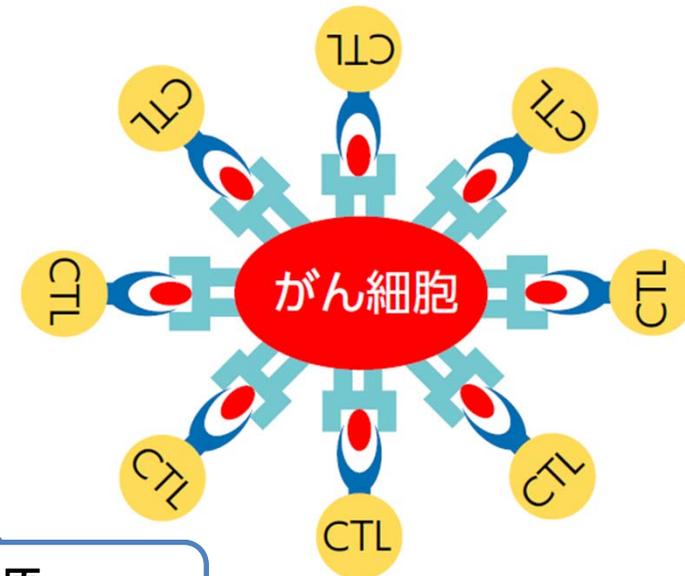
がんの目印となる**がん抗原ペプチド**を
投与する (ペプチドワクチン)



がん抗原ペプチドを提示させた
樹状細胞を投与する (DCワクチン)

活性化したCTL(リンパ球の一種)が、
がん細胞表面のペプチド(がんの目印)を
見つけてがんを殺傷する

-  樹状細胞=DC
-  がん抗原ペプチド
-  T細胞受容体=TCR
-  細胞傷害性T細胞
(リンパ球の一種)



オンコアンチゲン: がん特異的抗原
ネオアンチゲン: がん特異的変異抗原

ネオアンチゲンによる治療例

LETTER

Harvard University
Neon Therapeutics

doi:10.1038/nature22991

An immunogenic personal neoantigen vaccine for patients with melanoma

Patrick A. Ott^{1,2,3*}, Zhuting Hu^{1*}, Derin B. Keskin^{1,3,4}, Sachet A. Shukla^{1,4}, Jing Sun¹, David J. Bozym¹, Wandi Zhang¹, Adrienne Luoma⁵, Anita Giobbie-Hurder⁶, Lauren Peter^{7,8}, Christina Chen¹, Oriol Olive¹, Todd A. Carter⁴, Shuqiang Li⁴, David J. Lieb⁴, Thomas Eisenhaure⁴, Evisa Gjini⁹, Jonathan Stevens¹⁰, William J. Lane¹⁰, Indu Javeri¹¹, Kaliappanadar Nellaippan¹¹, Andres M. Salazar¹², Heather Daley¹, Michael Seaman⁷, Elizabeth I. Buchbinder^{1,2,3}, Charles H. Yoon^{3,13}, Maegan Harden⁴, Niall Lennon⁴, Stacey Gabriel⁴, Scott J. Rodig^{9,10}, Dan H. Barouch^{3,7,8}, Jon C. Aster^{3,10}, Gad Getz^{3,4,14}, Kai Wucherpfennig^{3,5}, Donna Neuberg⁶, Jerome Ritz^{1,2,3}, Eric S. Lander^{3,4}, Edward F. Fritch^{1,4†}, Nir Hacohen^{3,4,15} & Catherine J. Wu^{1,2,3,4}

ネオアンチゲンペプチドワクチン

6人の悪性黒色腫患者

15~20種のネオアンチゲンペプチドを投与

4/6人の患者は2.5年間 無再発

2/6人の患者は抗PD-1治療後に再発腫瘍が消失

Ott et al., Nature. 2017

LETTER

Johannes Gutenberg University
BioNTech Corp.

doi:10.1038/nature23003

Personalized RNA mutanome vaccines mobilize poly-specific therapeutic immunity against cancer

Ugur Sahin^{1,2,3}, Evelyn Derhovanessian¹, Matthias Miller¹, Björn-Philipp Kloeke¹, Petra Simon¹, Martin Löwer², Valesca Bukur^{1,2}, Arbel D. Tadmor², Ulrich Luxemburger¹, Barbara Schrörs², Tana Omokoko¹, Mathias Vormehr^{1,3}, Christian Albrecht², Anna Paruzynski¹, Andreas N. Kuhn¹, Janina Buck¹, Sandra Heesch¹, Katharina H. Schreeb¹, Felicitas Müller¹, Inga Ortseifer¹, Isabel Vogler¹, Eva Godehardt¹, Sebastian Attig^{2,3}, Richard Rae², Andrea Breitzkreuz¹, Claudia Tolliver¹, Martin Suchan², Goran Martić², Alexander Hohberger³, Patrick Sorn², Jan Diekmann¹, Janko Ciesla⁴, Olga Waksman⁴, Alexandra-Kemmer Brück¹, Meike Witt¹, Martina Zillgen¹, Andree Rothermel², Barbara Kasemann², David Langer¹, Stefanie Bolte¹, Mustafa Diken^{1,2}, Sebastian Kreiter^{1,2}, Romina Nemecek³, Christoffer Gebhardt^{6,7}, Stephan Grabbe³, Christoph Höller⁵, Jochen Utikal^{6,7}, Christoph Huber^{1,2,3}, Carmen Loquai^{3*} & Özlem Türeci^{8*}

ネオアンチゲンmRNAワクチン

13人の悪性黒色腫患者

10種のネオアンチゲンをコードするRNAを投与

9/13人の患者が12~23カ月間 無再発

Sahin et al., Nature. 2017

ネオアンチゲンワクチン接種は強力ながん細胞特異的免疫反応を誘発する

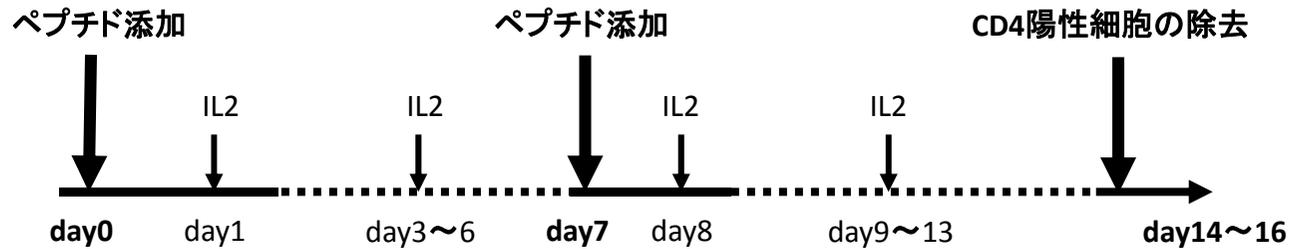
ネオアンチゲン関連臨床試験登録: 81件 (NIH臨床試験データベースより、2018年10月現在)

免疫反応解析

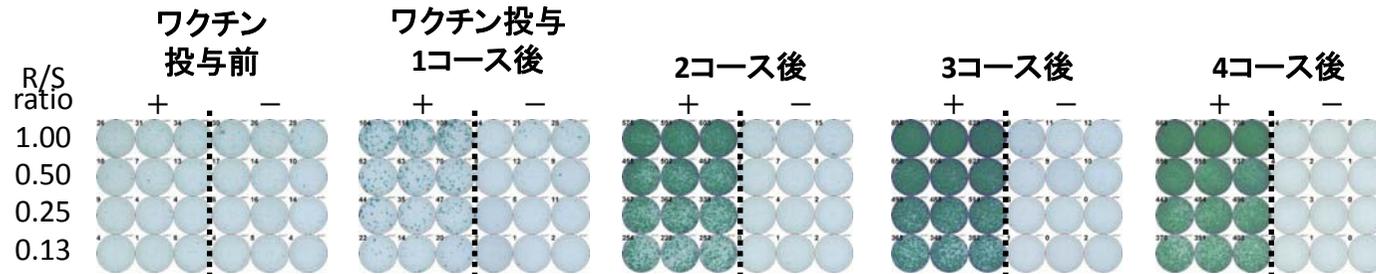


血液から分離した末梢血単核球を用いて、**ペプチドに反応するCTL**を検出する方法

ペプチド刺激による
前培養

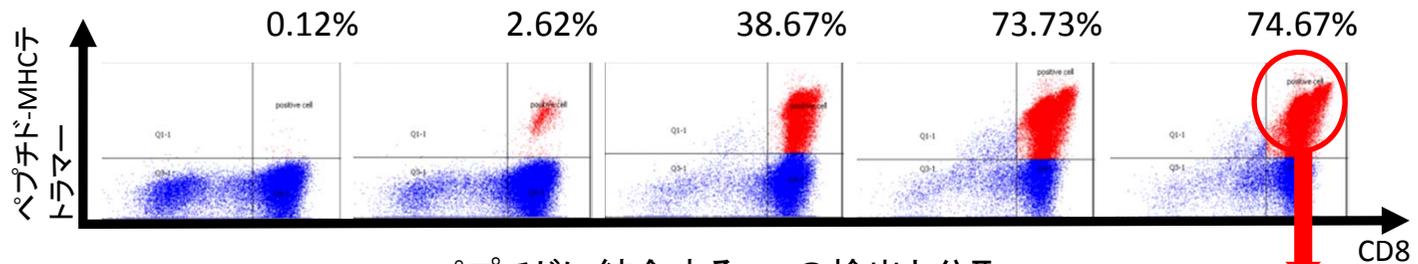


ELISPOT解析



ペプチド特異的IFN- γ 産生細胞の検出

テトラマー解析



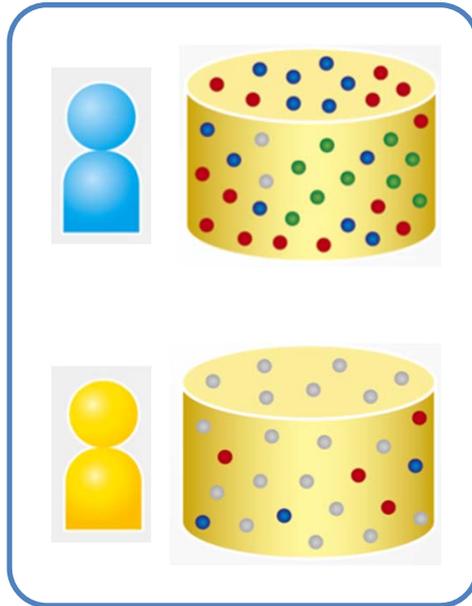
ペプチドに結合するCTLの検出と分取

TCR解析

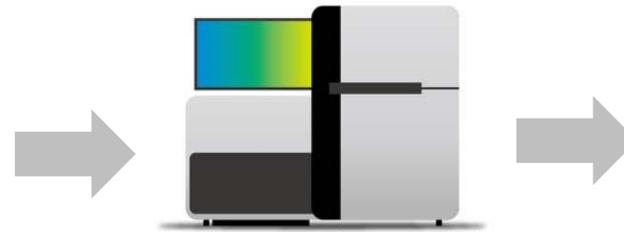
TCR解析



組織や末梢血中のリンパ球

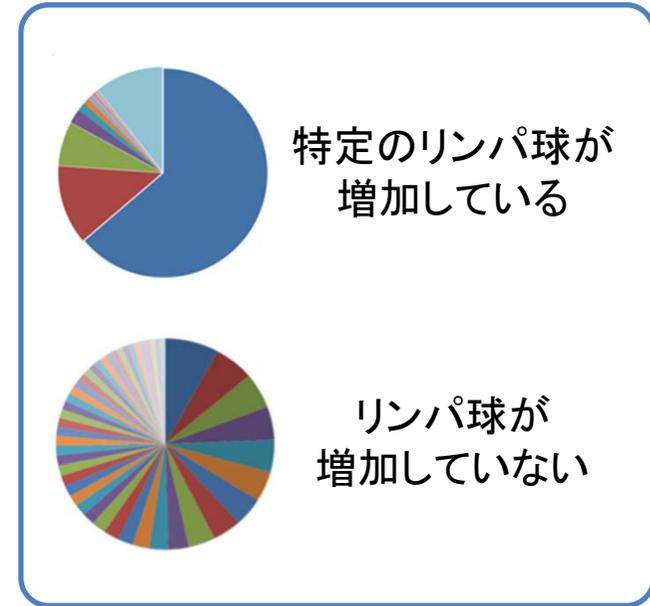


TCR遺伝子配列の取得



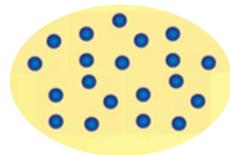
次世代シーケンサー

T細胞クローンの種類と頻度



TCR遺伝子導入
T細胞療法

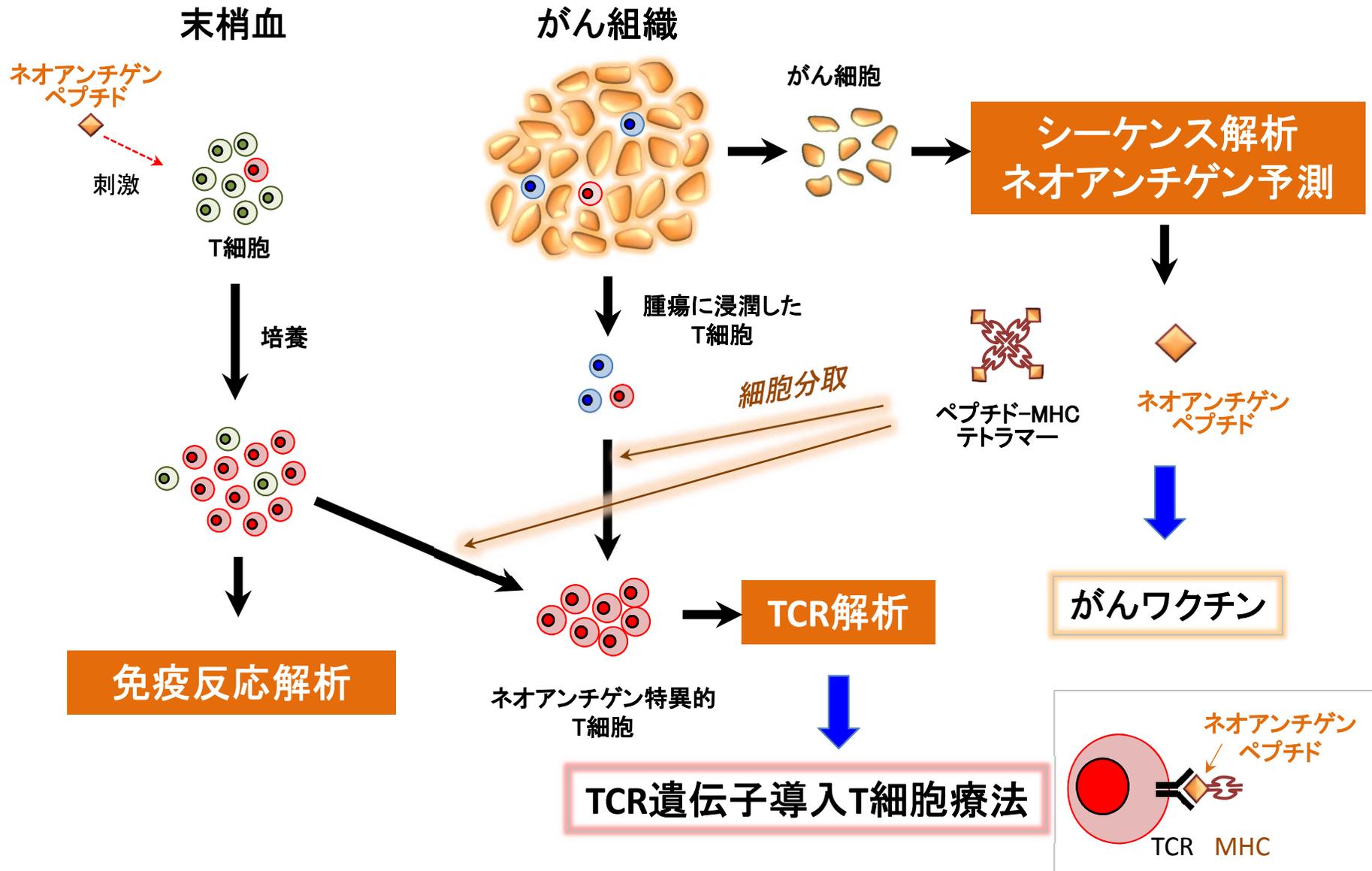
投与



TCR遺伝子を導入した
T細胞を作製

- ✓ 免疫モニタリング・患者選択
- ✓ 疾患に関与するリンパ球の特定

ネオアンチゲン個別化免疫療法の取り組み

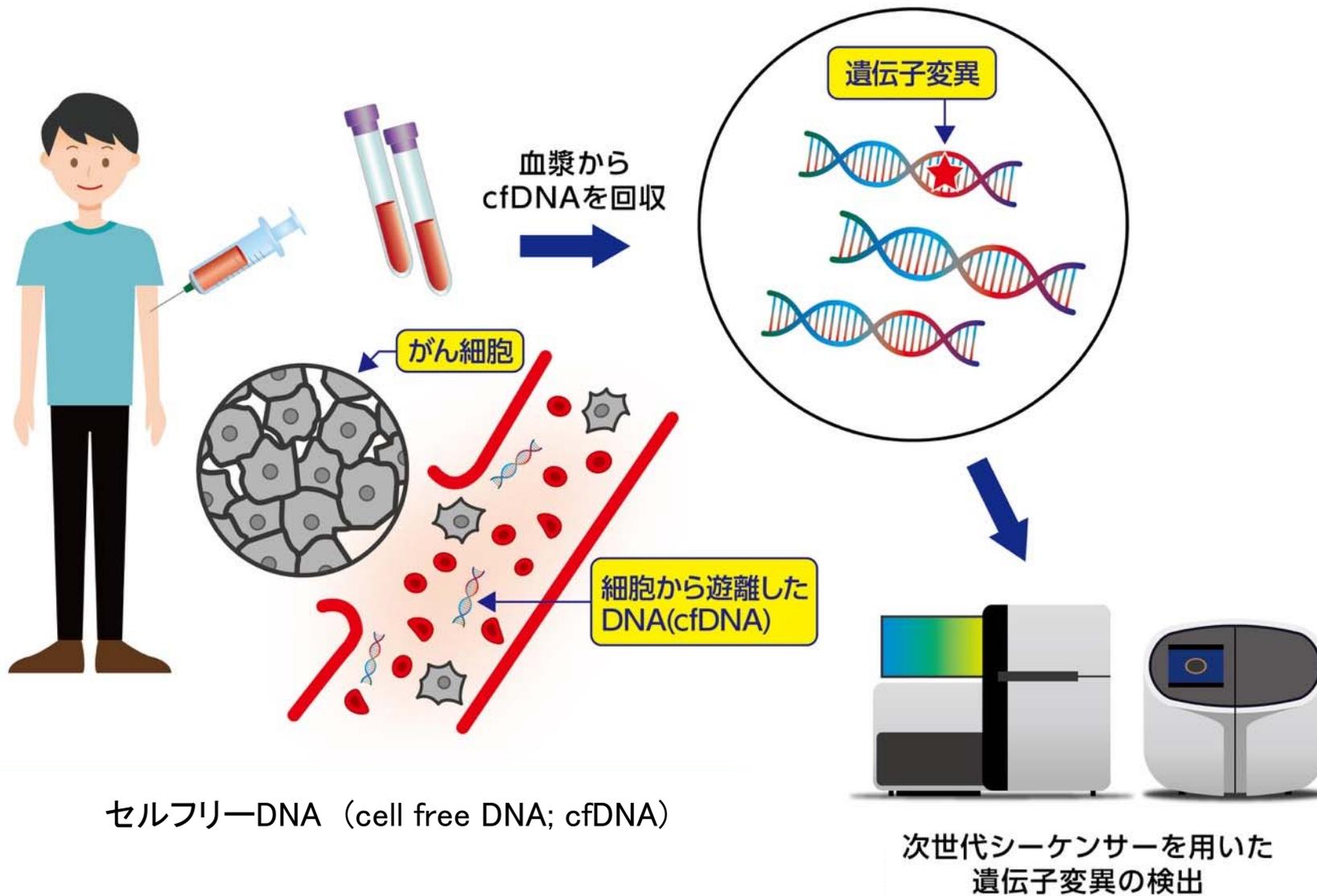


DCワクチンコンソーシアムとの提携



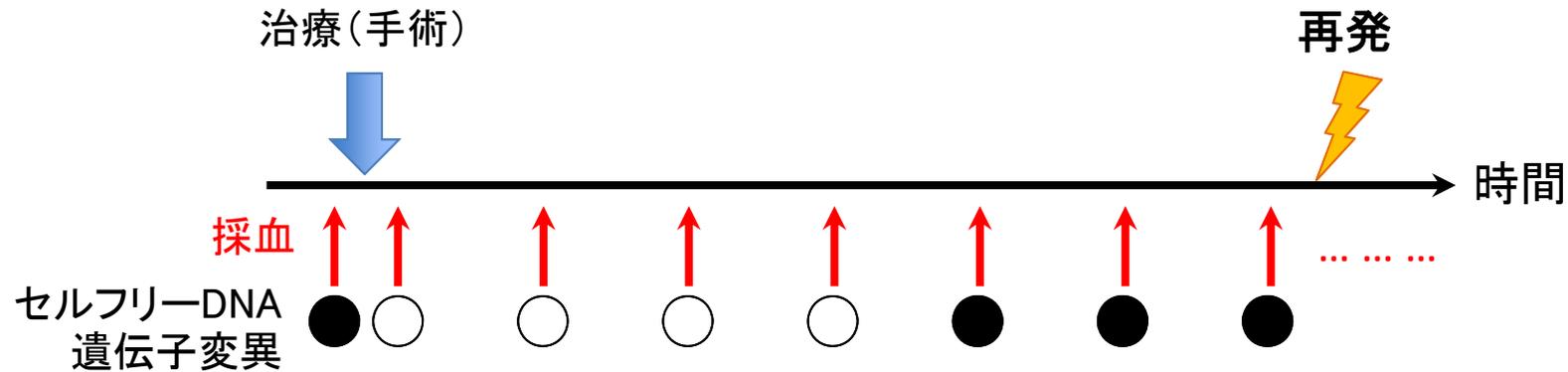
- ◆ **DCワクチンコンソーシアム**:大阪、福岡、東京を拠点とする3医療法人
 - ✓ OTSがライセンスを保有する**オンコアンチゲンペプチド**について**DCワクチン療法**への非独占的实施権を供与
 - ✓ CPMでの大規模遺伝子解析による**ネオアンチゲン予測**についての研究開発を共同で推進
 - ✓ **ネオアンチゲン療法での** 抗原が発現され、T細胞がクローン化されているか効果測定を行う。(ELISPOT解析およびテトラマー解析の実施)

リキッドバイオプシー

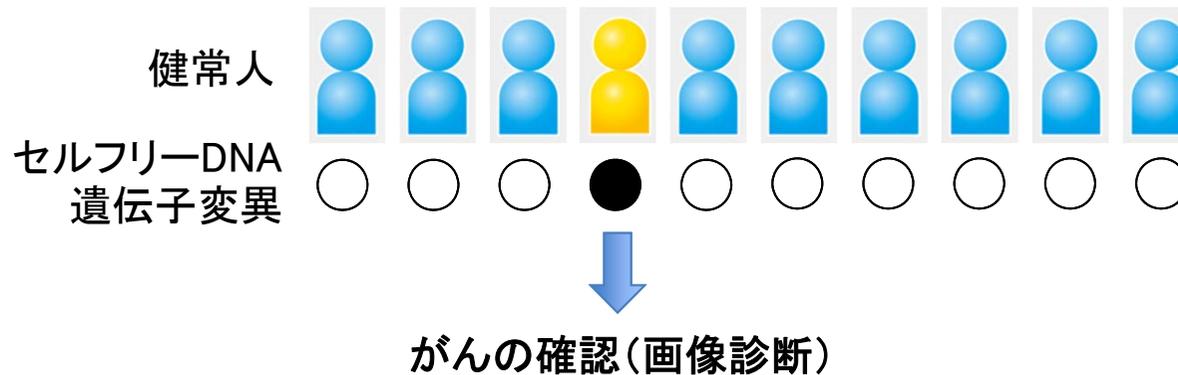


リキッドバイオプシーの応用

がん治療効果のモニタリングおよび再発の早期発見



がんスクリーニングと早期診断

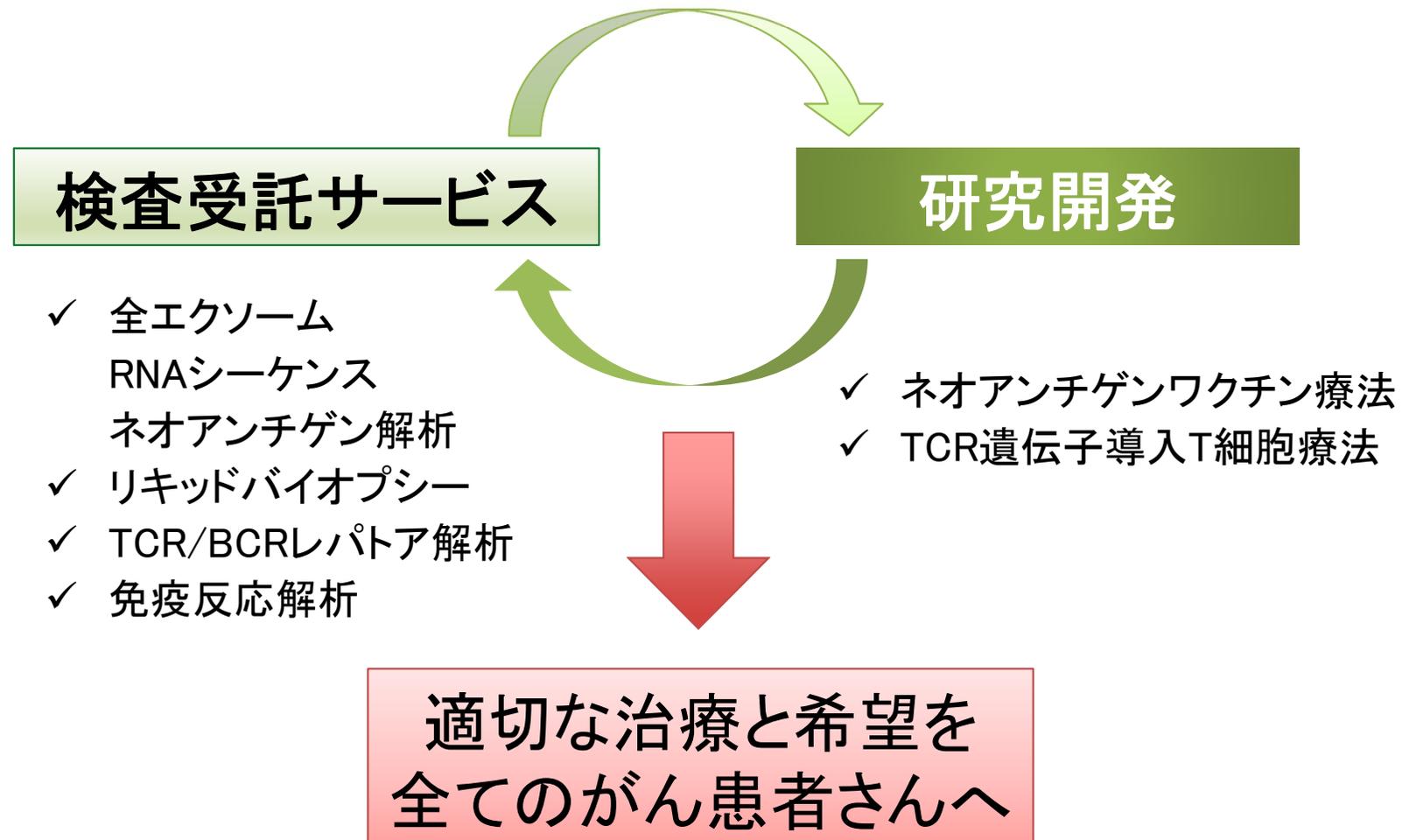


がんの遺伝子変異情報に基づいた薬の選択

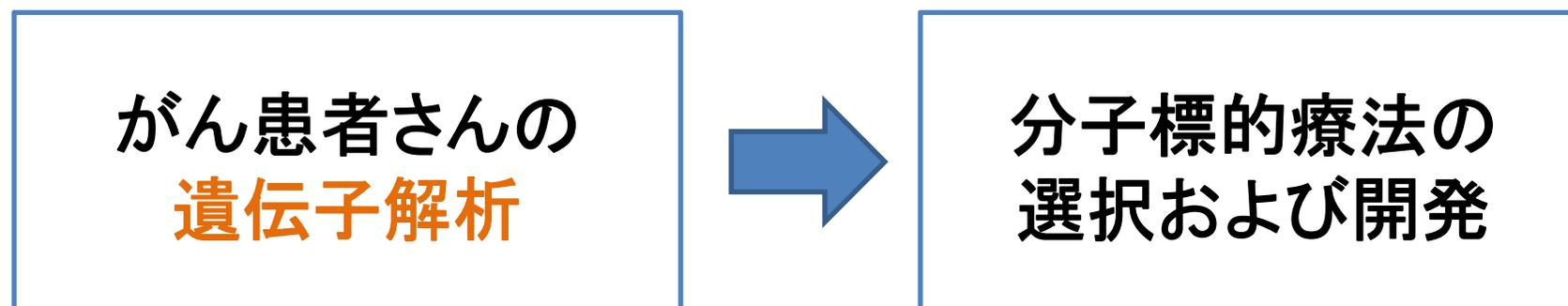
リキッドバイオプシー事業の進展



契約先	概要
<p><u>IMSグループ医療法人社団明芳会</u> <u>IMSグループ医療法人財団明理会</u> <u>株式会社アイル</u></p> <p>IMSグループ 職員数: 21,709 名 (平成29年) 総病床数: 12,493 床 (平成29年)</p>	<p>胃がん、大腸がんの 手術後再発の早期発見を 目的とした共同研究</p>
<p><u>公益財団法人がん研究会</u></p> <p>外来延患者数: 418,944 名 (平成28年) 手術数: 8,548 件 (平成28年)</p>	<p>固形がんの診断を目的と した技術・改良、新規技術 の共同研究</p>
<p><u>Thermo Fisher Scientific</u></p> <p>世界をリードする科学サービス企業 従業員数: 70,000 名 200 億ドルの収益</p>	<p>新規リキッドバイオプシー プラットフォームの評価の ための提携</p>
<p><u>セコム医療システム株式会社</u> <u>医療法人社団あんしん会 四谷メディカルキューブ</u></p> <p>セコム健康くらぶKENKO 提携医療機関</p>	<p>リキッドバイオプシーによ るがんの早期発見法の検 討にかかる共同研究</p>



適切な人に適切なタイミングで適切な治療を



- ・ 生存率の向上
- ・ 高精度にがんを狙う
- ・ 副作用の緩和



本資料は、投資者に対する情報提供を目的として記載したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。本資料発表日現在の将来に関する前提、見通し、計画に基づく予測が含まれております。これらは現時点で入手可能な情報から得られた当社の判断に基づくものであり、今後の経済情勢、市場の変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績は予測と大きく異なる可能性があります。

当社の事業計画に対する評価及び投資に関する決定は投資者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。